

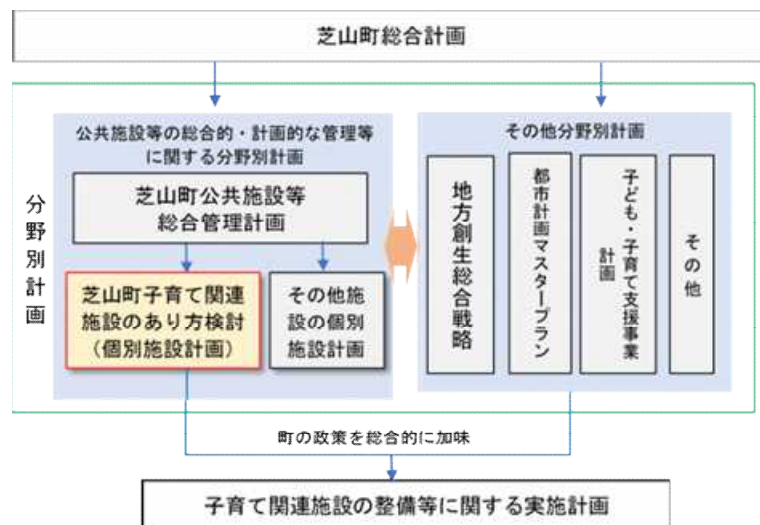
芝山町子育て関連施設のあり方検討（個別施設計画）【概要版】 1 / 7

1 検討の概要（本編 P 1～2）

背景・目的

- ・芝山町では平成29年3月に、公共施設等について今後の整備や再編の指針となる「芝山町公共施設等総合管理計画」を策定。
- ・本検討は、子育て関連施設の今後のライフサイクルコスト削減や保育環境等の視点から、今後の整備方針を明らかにするものである。

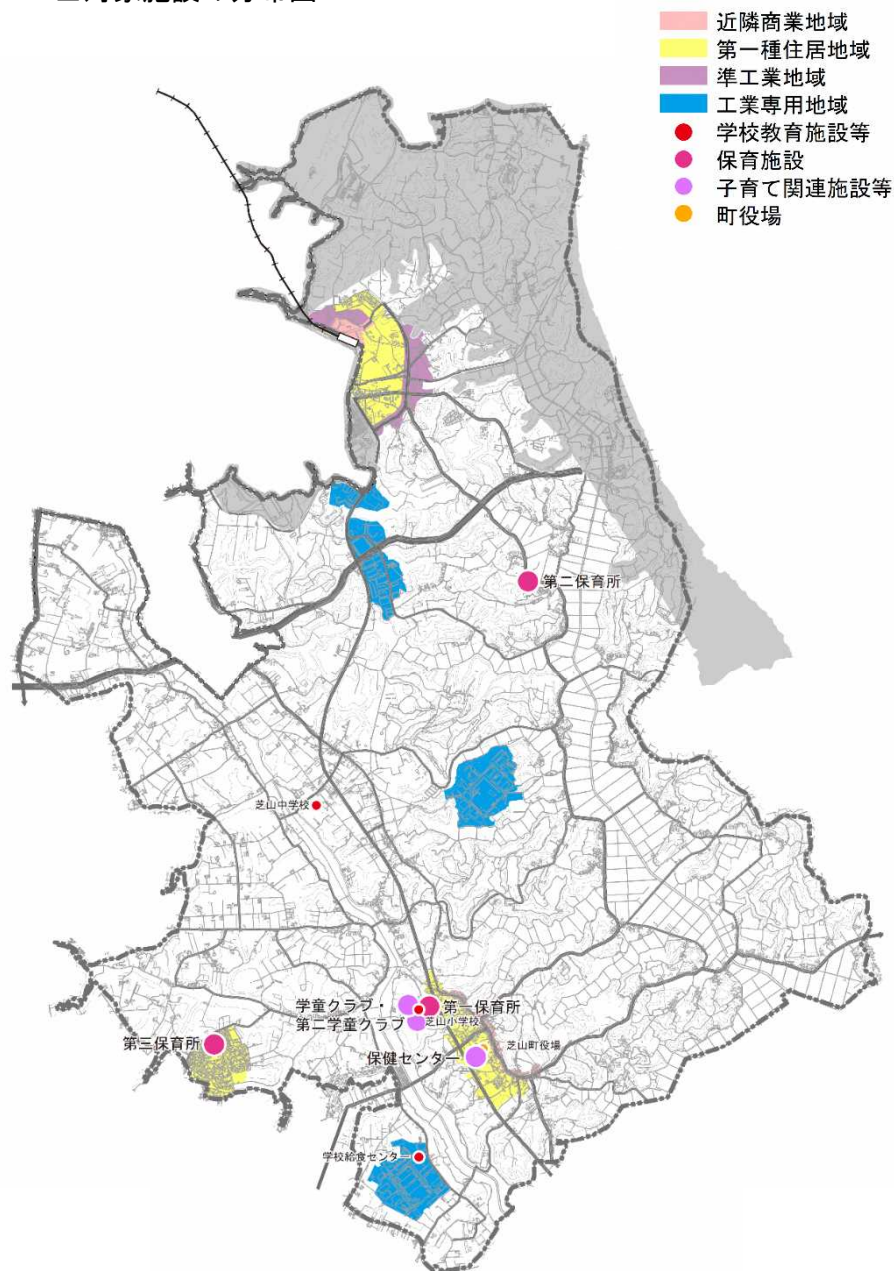
本検討の位置づけ



対象施設

施設区分	施設名	建築年	延床面積(㎡)
保育所	第一保育所	昭和50（1975）年	450
	第二保育所	昭和63（1988）年	487
	第三保育所	昭和53（1978）年	413
保健センター		平成元（1989）年	609
学童クラブ	第一学童クラブ	平成19（2007）年	119
	第二学童クラブ	平成27（2015）年	231

■対象施設の分布図



2 現状把握（本編 P3～37）

利用者数の見通し（本編 P13～15）

【保育所利用者数の見通し】

- ・利用者数は平成31（2019）年4月1日現在、139名。
- ・将来的に利用者数は減少傾向で、令和12（2030）年の利用者は134人、令和22（2040年）の利用者は104人となる見込み。

※住民基本台帳による各歳別人口推計結果より作成

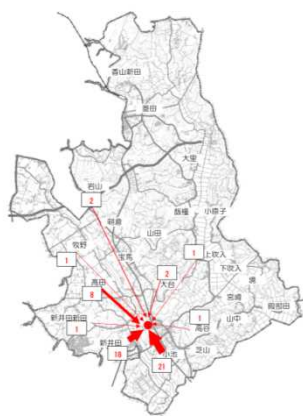
※利用者数は児童数の見込みに対し、年齢別に設定した利用割合を乗算

【学童クラブの利用者数の見通し】

- ・利用者数は平成31（2019）年4月1日現在、128名。
- ・将来的に利用者数は減少傾向で、令和12（2030）年の利用者は95人、令和22（2040）年の利用者は85人となる見込み。

保育所への通園状況（本編 P13～19）

■第一保育所



■第二保育所



■第三保育所



各施設の劣化状況及び評価（本編 P20～25）

- ・「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」の評価基準に基づき、棟毎に各部位（屋上、外壁、内部仕上、電気設備、機械設備）についてA～Dで評価。
- ・各部位の判定結果を基に、各施設の「健全度（劣化状況の点数（100点満点））」を算出。

■施設の健全度

A: 概ね良好 B: 部分的に劣化 C: 広範囲に劣化 D: 早急に対応する必要がある

					構造躯体の健全性					劣化状況評価						
施設名	建物名	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定			屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全性 (100点満点)
		西暦	和暦		基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度 (N/mm ²)	試算上の区分						
第一保育所	園舎	1975	S50	43	旧	-	-			要調査	C	C	C	B	B	49
第二保育所	園舎	1988	S63	30	新	-				長寿命	C	D	C	B	B	40
第三保育所	園舎	1978	S53	40	旧					要調査	C	B	C	C	C	50
保健センター	事務所	1989	H元	29	新	-	-			長寿命	C	C	C	B	C	45
学童クラブ	園舎	2007	H19	11	新	-	-			長寿命	B	B	A	A	A	91
第二学童クラブ	園舎	2015	H27	3	新	-	-			長寿命	A	A	B	A	A	91

施設職員、児童の保護者等の意向（本編 P26～37）

- ・子育て関連施設のあり方を検討するため、保育所職員、学童クラブ職員、就学前児童、小学校保護者及び教員を対象に、アンケート調査を実施。

■アンケート調査結果（一部抜粋）

【保育所職員】

- ・現保育所の課題について「老朽化」の指摘が最も多い（16人中11人）
- ・職員の配置について臨時職員がクラスを担当していることへの懸念が多い（15人中14人）

【就学前児童の保護者】

- ・現保育所の課題について「建物が老朽化し安全面が不安」が41.0%で最も多い。
- ・保育所統合による良い点は、「施設設備が新しくなり、安全面、衛生面が改善」が84.3%と最も多く、悪い点は、「場所により遠くなり、送迎が大変」が88.0%と多い。

3 あり方の検討（本編 P38～65）

保育所の現状を踏まえた整備等の考え方（本編 P42）

- ・現状・課題を踏まえて、保育所について以下の整備の考え方を設定。

(1) 3園維持	・第一、第二、第三保育所を個別に長寿命化（第二保育所は地盤沈下への対応を含む）
(2) 2園化	・第一保育所、第三保育所は以下を検討。 ア）第三保育所の園児を受け入れたうえで、第一保育所を長寿命化 イ）第三保育所の園児を受け入れたうえで、第一保育所を建替え ・第二保育所は地盤沈下への対応をしたうえで長寿命化。
(3) 1園化	第一、第二、第三保育所をともに廃止・統合し、新たに施設を新築。

- ✓長寿命化とは、建物を将来にわたって長く使い続けるため、物理的な不具合を直し建物の耐久性を高めることに加え、その機能や性能を求められる水準まで引き上げること。
- ✓第二保育所の地盤沈下への対応としては、ジャッキアップや薬剤注入等による部分的な改善を想定
- ✓旧耐震基準の第一、第三保育所はコンクリートの耐力度等が現行基準を満たしていない可能性があるため、長寿命化の実施にあたっては 圧縮強度等の調査が必要。

保育所の整備等において想定される手法の整理

- ・「(1) 3園維持」「(2) 2園化」「(3) 1園化」について、施設配置等の課題、整備等の工程、LCC（ライフサイクルコスト）の算定結果等を整理。（詳細は本編p41～p50）
- ・建替えを伴う「(2) 2園化」「(3) 1園化」は以下の比較から「その他の町有地」のうち適地を活用することが望ましい
■望ましい土地の比較（本編 P51）

	現位置	その他の町有地	民有地
建替え工事中の保育環境への影響	他の保育所へ一時的に園児を移動させる必要がある	建替え工事中でも既存施設を使用できるため、保育環境への影響が少ない	建替え工事中でも既存施設を使用できるため、保育環境への影響が少ない
用地の活用に係る障壁	特になし	特になし	新たな土地取得のための費用や手続きが発生する

- ・整理結果を踏まえ、以下4つのパターンを比較。（次頁）

■想定されるパターン（本編 P54）

保育所の整備等の考え方			
(1) 3園維持	(2) 2園化		(3) 1園化
第一：長寿命化 第二：長寿命化 第三：長寿命化	……ア)…………… 第一：長寿命化（統合） 第二：長寿命化 第三：廃止（統合）	……イ)…………… 第一：建替え（統合） 第二：長寿命化 第三：廃止（統合）	第一：建替え（統合） 第二：廃止（統合） 第三：廃止（統合）
パターン(1) 長寿命化するため、3園ともに現位置	パターン(2)-ア 2園を長寿命化するため、第一、第二ともに現位置	パターン(2)-イ 第一をその他の町有地の適地に建替え 第二は長寿命化するため現位置	パターン(3) 統合した施設をその他の町有地の適地に建替え

保育所の整備手法パターンの評価

（本編 P55）

- ・保育所について「②保育環境の課題等」を重視する場合には「1園化」が優位となるが、「2園化」も費用面が低廉、現在や将来の人口動向やまちづくりの進捗に合わせて、適正な施設規模を確保、立地を検討できるといったメリットがある。
- ・「2園化」の場合は、第一、第三保育所の現利用者が南部地域に集中しているため、従来に近い送り迎えが可能となるが、「1園化」の場合は、町内に分散する3保育所を1園とするため、立地によって利用者の送り迎えの負担が大きくなる。

		3園維持			2園化			1園化		
		3園ともに長寿命化			南部：第一長寿命化（統合）、北部：第二長寿命化			3園ともに統合		
		位置：3園ともに現位置			位置：第一、第二ともに現位置			位置：町有地のうち適地、第二は現位置		
		パターン(1)			パターン(2)-ア			パターン(2)-イ		
① LCCの多寡	1. 今後、約20年間のLCC	238,000千円（～2040年）	◎ 2		183,000千円（～2040年）	◎ 3		334,000千円（～2040年）	○ 1	
	2. 今後、約40年間のLCC	475,000千円（～2060年）	○ 1		376,000千円（～2060年）	◎ 3		421,000千円（～2060年）	○ 2	
	3. 今後、約80年間のLCC	600,000千円（～2100年）	○ 2		501,000千円（～2100年）	◎ 3		617,000千円（～2100年）	○ 2	
	小計									
② 保育環境の課題等	1. 工事中の児童への影響	・長寿命化改修する間、3園で児童を交互に受け入れながら進める必要があるため、保育環境への影響が懸念される	△ 1		・長寿命化改修する間、3園で児童を交互に受け入れながら進める必要があるため、工事となるため、保育環境への影響が懸念される	△ 1		・第一はその他の町有地を活用することで、仮設園舎の設置等も必要なく、保育環境への影響はない	○ 2	◎ 3
	2. 工事後の保育所環境の改善・機能の向上	・既存建物を使用していくことになるため、抜本的には環境改善・機能の向上は図りにくい	△ 1		・既存建物を使用していくことになるため、抜本的には環境改善・機能の向上は図りにくい	△ 1		・第一、第三が新園舎に整備されることにより、保育環境の向上が期待できる	○ 2	◎ 3
	3. 保育所への送迎	・現状の位置で施設を確保するため、これまで通り送り迎えができる	◎ 3		・第三保育所を廃園するが、第三の利用者は南部地域に集中していることから、おおむねこれまで通り送り迎えができる	○ 2		・一方、第二は既存建物を使用していくことになるため、抜本的には環境改善・機能の向上が図りにくい	○ 2	△ 1
	4. 保育士の適正配置	・これまでと同様の配置であり、クラス担任を臨時の保育士が担うという課題は残される	△ 1		・3園の保育士を2園に集中できることから、保育士の配置を見直し、各クラスの担任を正規職員で対応できる可能性がある	○ 2		・第三保育所を廃園するが、第三の利用者は南部地域に集中していることから、おおむねこれまで通り送り迎えができる	○ 2	◎ 3
小計										
③ アンケート調査の結果	1. 現施設の課題について（保育士）	・【問2】施設の老朽化についての指摘が最も多い。（16人中11人）その他、建物の広さや管理等についての意見もある。	○ 2		・同左	○ 2		・第一、第三が新園舎に整備されることにより、保育環境の向上が期待できる	◎ 3	◎ 3
	2. 保育所3園統合について（保育士）	・【問4】3園を統合した場合、「3園分の園児が1か所にまとまるため、保育士の配置が適切になる」が（16人中15人）。3園に分散したままなので、評価を「△」とする。	△ 1		・【問4】3園を統合した場合、「3園分の園児が1か所にまとまるため、保育士の配置が適切になる」が（16人中15人）。2園に集約されるので改善が図られることから、評価を「○」とする。	○ 2		・第一、第三が新園舎に整備されることにより、保育環境の向上が期待できる	○ 2	◎ 3
	3. 現在の保育所の課題（就学前児童保護者）	・【問16】現在の保育所の課題は老朽化（「建物が高齢化し安全面が不安」が41.0%）。	○ 2		・同左（2園の場合も長寿命化なので同様）	○ 2		・【問4】3園を統合した場合、「3園分の園児が1か所にまとまるため、保育士の配置が適切になる」が（16人中15人）。1園に集約されるので最も改善が図られることから、評価を「◎」とする。	○ 2	◎ 3
	小計									
④ その他	1. 現状の利用者数に対する必要な規模の確保	・現状の保育所利用者数133人に対し、過剰な定員数の施設を残さなければならない	△ 1		・現状の保育所利用者数133人に対し、第二定員70名、第一定員85人であるため、必要な規模の施設に転換できる	○ 3		・現状の保育所利用者数133人に対し、第二定員70名、第一定員60名超の定員とすることで必要な規模の施設に転換できる	◎ 3	◎ 3
	2. 将来的な児童数減への対応のしやすさ	・3園を長寿命化した場合、少なくとも20年は維持することとなる。2054年には70人を下回る利用と見込まれ、その時点で実利用者数をふまえて1園化することも可能となる。	◎ 3		・長寿命化する2園は、少なくとも20年は維持することとなる。2054年には70人を下回る利用と見込まれ、その時点で実利用者数をふまえて1園化することも可能となる。	◎ 3		・新第一保育所は定員80人を想定している。2028年に第二を長寿命化したのち、次に大規模改修する2048年の利用者数は80人を下回ると見込まれ、第二は廃園を選択肢にできる	◎ 3	△ 1
	3. 自園給食への対応	・既存施設・敷地を使っていくことになるため、自園給食の対応がしにくく、各園にて整備が必要となる	○ 1		・既存施設・敷地を使っていくことになるため、自園給食の整備がしにくいが、2園での整備で済む	○ 2		・第一保育所の建替えに合わせて自園給食の対応は可能であるが、第二では既存施設・敷地の規模から自園給食の対応がしにくい	○ 2	◎ 3
	小計									
合計点										

※（ ）内の点数は、②保育環境の課題等は3倍、④その他は2倍の重み付けを行った合計値

◎：3点、○：2点、△：1点

評価結果を踏まえた保育所の整備方針

（本編 P58）

- ・ 保育所については、現在の3園の状態を見直すこととし、北部・南部の利用者が利用しやすいよう「2園化」する。
- ・ 「2園化」後は、将来的な人口動向やまちづくりの進捗を加味し、必要な時期に第一保育所と第二保育所を統合し、「1園化」を図る。

2園化の手法

2園化にあたっては、早期に第一保育所のコンクリート強度等の調査を行ったうえで、長寿命化の実施有無を検討。

■ 2園化（パターン(2)-ア）

第一保育所	第三保育所を受け入れたうえで、現位置で長寿命化※。
第二保育所	地盤沈下への対応を含めて、現位置で長寿命化し、長く使い続ける。
第三保育所	第一保育所・第二保育所への統合に伴い、施設を廃止。

※旧耐震基準の第一保育所はコンクリートの耐力度等が現行基準を満たしていない可能性があるため、長寿命化の実施にあたっては 圧縮強度等の調査が必要。

■ 2園化（パターン(2)-イ）

第一保育所	第三保育所を受け入れたうえで、まちづくりの進捗等を踏まえ町有地※のうち適地を選定し、建替え。
第二保育所	地盤沈下への対応を含めて、現位置で長寿命化し、長く使い続ける。
第三保育所	第一保育所・第二保育所への統合に伴い、施設を廃止。

※民有地においても、町有地より立地上のメリットが大きい場合には、新たに土地取得を行うことも想定。

その他子育て関連施設の整備等の考え方（本編 P59）

- ・「現状・課題」を踏まえて、保健センター等、学童クラブについて以下の整備の考え方を設定。

保健センター・
子育て世代
包括支援セン
ター・
子育て支援
センター

(1)増築：保健センターの長寿命化改修を行い、増築部分に子育て世代包括支援センターと子育て支援センターを設置する。

(2)改修：保健センターの長寿命化改修を行い、子育て世代包括支援センターと子育て支援センターを施設内に設置する。

学童クラブ

小学校のあり方を踏まえて、方向性を検討

【小学校は移転建替を検討】

- ・現位置から遠くなる場合には、学童クラブも移転整備する。
- ・小学校が現在の敷地の周辺に移転建替える場合に限り、現在の学童クラブを継続して使用する。

保健センター・子育て世代包括支援センター及び 子育て支援センターのあり方の評価（本編 P64）

- ・「(1)増築」「(2)改修」について、「(1)増築」であればさらなる利便性や機能の向上が期待できる。

		保健センター増築		保健センター改修	
① LCCの多事	1. 今後、約20年間のLCC	131,000千円（～2040年）	○	103,000千円（～2040年）	◎
			2		3
	2. 今後、約40年間のLCC	181,000千円（～2040年）	○	146,000千円（～2040年）	◎
			2		3
	3. 今後、約80年間のLCC	473,000千円（～2040年）	○	413,000千円（～2040年）	◎
			2		3
小計		6点		9点	
② サービスに係る利用の課題等	1. 工事中の影響	・現保健センター内にある機能の一部（子育て支援センターと子育て世代包括支援センター）を先に増築部分に整備し、その後本体部分の改修を行うため、やや煩雑さが軽減される	○	・現保健センターの機能を維持しつつ、改修を行う	△
			2		1
	2. 工事後の環境の改善・機能の向上	・保健センター、子育て世代包括支援センター、子育て支援センターそれぞれが望ましい形で整備されることとなる	◎	・現保健センターの規模の範囲で、各機能を今後も継続して運営していくことになる	○
			3		2
	3. 施設の利用しやすさ	・子育てにかかる機能は増築部分に集約され、保健センターの各種事業とも重なることなく利用ができる	◎	・改修を行うことで利用のしやすさは改善される	○
			3		2
小計		8点		5点	
③ その他	1. 将来的な利用者数に伴う対応のしやすさ	・利用者数が増加した場合でも、十分なスペースを確保できている、対応可能である	◎	・子育て支援センター等の利用者数が増加した場合、保健センター事業とのすみわけが難しくなる	○
			3		2
	2. まちづくりの視点	・子育て支援に対する取り組みを充実することができ、子育て世代へのアピールにもなる	◎	・現状維持	○
			3		2
小計		6点		4点	
合計点		合計 20点		合計 18点	

◎：3点、○：2点、△：1点

保健センター・子育て世代包括支援センター及び子育て支援センター

- ・保健センターは増築を含む長寿命化改修を行う。
- ・増築部分には子育て世代包括支援センターと子育て支援センターの機能を設置する。
- ・将来的には、保健センター既存部分の改築時期と増築部分の耐用年数を合わせることで、別棟にする場合は木造又は鉄骨造を想定する。

学童クラブ

- ・小学校（移転建替）敷地内に整備する。
- ・なお、小学校が現位置から大きく他の地域へ移らず、学童クラブの徒歩圏内であれば、できる限り学童クラブは長寿命化し、使用する。